

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 個に応じた「確かな学力」の定着と、「豊かな心」をはぐくみ、将来を「生き抜く力」を身に付けさせることによって、地域社会や保護者から信頼される学校をめざす。
- 1 地域社会や生徒の実情を踏まえ総合学科のメリットを生かし特色ある教育活動を展開し、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な学力の定着を図る。
 - 2 他人を思いやる心や自然や美への感性など「豊かな心」をはぐくみ、規範意識と自律心を身に付けた生徒を育てる。
 - 3 教職員が一丸となって『学校力』を高めあい、生徒に「生き抜く力」を身に付けさせる。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と学びの深化と魅力ある授業の実践
 - (1) 生徒一人ひとりの学力を把握し、総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動を通じ、学力「基礎基本的な知識・技能、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」の定着を図る。
 - ア 生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、生徒の「学ぼうとする意欲」を高め、基礎的・基本的な知識・技能・教養を定着させる。
 - イ 生徒支援の視点から、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有することで、きめ細かな個別の指導を行うとともに、学校教育活動全般を通じ、生徒の「学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」を定着させる。
 - ウ 学習指導要領の確実な実施と教科等横断的な視点から生徒の実態に即した組織的な授業力の向上と教員相互授業研究を図る。
 - (2) 生き生きとした活力ある学校組織と魅力ある授業をめざして
 - ア 教員としての力量を高めるため、また活力ある学校組織の推進のための学校運営を行うとともに効果的な教職員研修を実施し、あわせて校務における ICT 機器を活用した教員の働き方改革についても推進する。
 - イ 魅力ある授業を実現するため、学習形態の工夫を行い、ICT 機器の活用と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の取組みについて推進する。
 - ※ 研究授業や授業研究期間等の様々な取組みを通して令和 9 年度には、「先生の授業はわかりやすく楽しいと思う（授業満足度）」85%以上(R 4 81%、R 5 93%、R 6 97%)をめざす。
- 2 「豊かな心」と規範意識を身に付けた生徒を育てる
 - (1) 規律・規範のある学校環境をつくり、様々な活動を通して、豊かな心と自律心をはぐくむ取組みを推進する。
 - ア 生徒の自主性を育てる取組みを実践するとともに、地域社会への奉仕活動を行い、地域社会から信頼される学校をめざす。
 - イ 多様な学校行事や系統的な教育プログラムによる体験活動を通じ、互いに他者を大事にできる生徒の集団づくりを行う。
 - ※ 生徒・保護者の「成城高校に入ってよかったと思う（学校満足度）」令和 9 年度まで 90%以上(生徒 R 4 92%、R 5 93%、R 6 97%・保護者 R 4 97%、R 5 100%、R 6 97%)を維持する。
 - ウ 規律・規範のある学校環境をつくり、社会ルールを順守する姿勢を育成するための生活指導をすすめ、生徒の自律心をはぐくむ。
 - (2) キャリア教育、人権教育の推進
 - ア 入学時から卒業までを見通した進路指導計画に基づき学年と連携しながら、卒業時の就労希望者・進学希望者の進路決定率 100%(R 4 94%、R 5 100%、R 6 89%)をめざす。
 - イ 「社会の一員としての自主性・自立性」を育成する生徒のキャリア教育、就労や進学に向けた取組みを充実させる。
 - ウ 人権教育推進計画に基づき、互いを認め合える人権教育の実施といじめ・差別・偏見を許さない態度を育てる。
- 3 生徒支援を軸にした学校づくり
 - (1) 生徒支援
 - ア 生徒支援委員会を中心に学年団や各分掌との連携をはかり、組織的・計画的に個々の生徒に応じた支援や学習保障を実践する。
 - イ 学級や部活動における担任・顧問による教育相談をはじめ、外部人材であるスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの積極的な活用や NPO との連携を推進し、生徒の「居場所づくり」をすすめ、教育相談活動と生徒支援の取組みの充実をはかるとともに、自尊感情をはぐくむ教育活動を推進する。
 - ウ 職員全体の指導力を向上し生徒が信頼し相談しやすい安心できる学校づくりを推進するため、校内生徒指導体制の充実を図るとともに、支援教育や人権教育等に関する教職員研修等への取組みを推進する。
 - ※ 令和 9 年度まで「悩みやいじめ等を相談し親身になって応じてくれる先生がいる」生徒肯定率 90%以上(R 4 72%、R 5 95%、R 6 92%)をめざす。
 - エ 上記の実践を通じて、中途退学や不登校の減少に取り組む。
 - ※ 令和 9 年度には中退率 10%以下(R 4 8%、R 5 10%、R 6 2%)、新入生の登校率 80%以上(R 4 81%、R 5 87%、R 6 90%)を維持する。
 - (2) 安全・安心な学校づくり
 - ア 定時制の現状に即した防災教育の実践および、生徒の安全に配慮した学校施設の点検や改善を図る。
 - イ 健康教育・安全教育等を実施し、適切に対応できる体制環境整備を実施する。
 - (3) 学校教育活動の情報発信
 - ア 保護者や近隣中学校、地域社会に向けて、Web ページや SNS 等での積極的な情報発信や広報活動を充実させる。
 - イ 新たなセキュリティポリシーと個人情報の適正な管理とルール作成及び徹底

府立成城高等学校 定時制の課程

		ある学校名や名前を掲示するため、本人と保護者から同意を得る必要があるということ。 ・定時制のことを詳しく知らない保護者も多いため、私立の通信制に流れることが多い。区役所や福祉に定時制を 知ってもらうことは大切である。 ○令和 8 年度学校経営計画（案）について ・情報共有会議に 8 年度は SC、SSW も参加してもらえるようにしてほしい。→報告だけでなく、ケース会議にしたい。 ・中期的目標に、コミュニケーションの育成があるところに特色が出ている。 ・学校独自の学校説明会に、是非カフェを入れてほしい。→今年度も入れた。あえてカフェのある日に設定している。 ○令和 7 年度第 2 回授業アンケートについて ・人数が少ないから良い評価になっているというより、本当に良いから良い評価だと思う。 ○令和 7 年度学校教育自己診断について ・保護者からの評価が高い。
--	--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化と魅力ある授業の実践	(1)個に応じた学力の定着 ア 基本科目の検証、改善、出席率の向上	(1) ア 学力診断テストを実施、生徒個々に対する指導と授業の改善をはかる。	(1) ア・学校教育自己診断「授業の教科科目は工夫されており自分の学びたいものがある」生徒の肯定率 90%以上維持 [92. 3%] ・全年次の出席率の向上 [93. 0%]	ア・学校教育自己診断「授業の教科科目は工夫されており自分の学びたいものがある」生徒の肯定率は 89. 5%であった。今後も維持できるようにする。(○) ・全年次の出席率は 87. 5%であった。事情により、特定の長期欠席者がいたため、そのような結果となった。今後も中退防止コーディネーターや SSW をさらに活用し、改善していきたい。(△)
	イ 興味関心を持たせる授業	イ 基礎的・基本的な知識・教養の習得のため、教材を工夫し学ぶ意欲の向上をはかる。また「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」等の授業を推進し、する。	イ・学校教育自己診断「「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の授業内容は自分にとってためになっている」生徒肯定率 90%以上維持 [92. 3%] ・振り返りシートの全員提出及び活用し、授業アンケートの平均値を 1 回目よりも 2 回目を向上させる [3. 70→3. 64] ・図書館を開館し、また図書館活用を促進し、読書に興味関心を持たせる [2 期間]	イ・学校教育自己診断「「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の授業内容は自分にとってためになっている」生徒肯定率 86. 8%と前年度を下回ったものの、担任の教材の工夫で高い水準を維持できた。(○) ・授業アンケートの結果は [3. 68→3. 75] で 2 回目は向上した。振り返りシート等で教員が改善の意識をもって取り組んでいる。(○) ・図書館を 2 期間開館できた。(○)
	(2)生徒のやる気を高め、魅力ある授業づくりの推進 ア 教員力の向上	(2) ア 組織的・継続的な研修を実施するとともに教員力の向上をはかる。	(2) ア・他校の定時制や本校全日制の授業見学や外部研修を推奨する [新規] ・授業改善に関する職員研修や情報共有年 1 回[新規] ・校内独自の経験年数の少ない教員向け研究授業や研修 年 4 回以上実施 [新規]	ア・他校の定時制の授業見学を 1 回実施できた。(○) ・授業改善のための情報共有を年 2 回実施できた。(◎) ・校内独自の経験年数の少ない教員向け研究授業や研修は年 5 回実施した。(○)
	イ 教員の働き方改革	イ ゆとり月間を推進し、時間外勤務時間の減少を図りストレス軽減につなげる。	イ・ノークラブデー・定時退庁日の促進や計画的有給休暇・振替休暇の取得により、年間平均累計時間外勤務 110 時間以内 [130 時間] ・学校教育自己診断「学校では、教育活動について教職員で日常的に話し合っている。」教員の肯定率 80%以上 [75. 0%]	イ・年間平均累計時間外勤務が 153 時間であった。休日の部活動付き添いの教員や管理職の時間外労働が多い傾向にある。今後は声かけを行い、縮減に努める。(△) ・学校教育自己診断「学校では、教育活動について教職員で日常的に話し合っている。」教員の肯定率 60%で達成できなかった。学校運営・組織についての教職員研修を行い、職員室のレイアウト変更や担任複数制、分掌や委員会の組織変更により、組織的なチーム学校となるよう改善する予定。(△)
	ウ 「主体的・対話的で深い学び」の授業の推進と ICT 機器、1 人 1 台端末の活用	ウ 「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけ、1 人 1 台端末をどの授業でも活用し ICT 機器を活用した授業力の向上を図る。	ウ・教員間の相互授業評価を行い、授業研究期間の実施継続 2 回[2 回] ・学校教育自己診断「コンピュータ、タブレット(1 人 1 台端末)などを使った授業はわかりやすいと思う」ICT を活用した授業の生徒肯定率 85%以上維持 [94. 9%] ・ICT 委員会を中心に新ネットワーク環境での効率的な運用や活用を提案する[新規] ・ICT 機器や 1 人 1 台端末を活用した授業の展開や生徒の活用等、授業で端末を利用している教員数が全体の 70%以上 [新規]	ウ・授業研究期間を 2 回実施でき、教員間の相互授業評価を行った。(○) ・学校教育自己診断「コンピュータ、タブレット(1 人 1 台端末)などを使った授業はわかりやすいと思う」ICT を活用した授業の生徒肯定率 86. 8%で達成できた。(○) ・ICT 委員会を中心に生成 AI の研修を実施できた。(○) ・授業で端末を利用している教員数が全体の 93. 3%で達成した (◎)
2 豊かな心と規範	(1)規律・規範のある学校生活の充実 ア 生徒会活動の充実	(1) ア 生徒会中心で学校行事を企画し、生徒参加の地域清掃やあいさつ週間や地域行事への参加を実施する。	(1) ア・学校教育自己診断「文化祭・体育祭は、楽しく行われている」生徒肯定率 90% 以上維持 [92. 3%] ・地域清掃・あいさつ運動・地域行事への積極的な参加や協働を行う [地域清掃・あいさつ運動・地域行事]	ア・学校教育自己診断「文化祭・体育祭は、楽しく行われている」生徒肯定率 97. 4%で達成でき、いきいき取り組んでいる姿が見られた。(◎) ・地域清掃・あいさつ運動・地域行事を今年度も実施でき、地域行事では地域の方との関わりも体験できた。(○)

府立成城高等学校 定時制の課程

意識を身に付けた生徒を育てる	イ 特別活動の充実	イ 豊かな心をはぐくみ、学校生活を充実したものにするため、部活動体験入部などの取組みを実施。	イ・生徒会規約を策定し、部活動入部率 75％以上継続[80. 0％] ・生徒秋季発表大会に作品参加及び発表する [12 作品] [新規]	イ・生徒会規約を策定し、部活動入部率 75％で継続できた。年次を超えた関わりができた。(○) ・生徒秋季発表大会に 7 作品を出品した。作品は他にもあったが、個人情報の同意を得た上で出品するため、その手続が間に合わず達成できなかった。しかし、出品した作品の中で 2 作品は入賞することができた。今後はそのような手続きの点を改善していきたい。(△)
	ウ 規律ある生活指導の充実	ウ 「成城スタンダード」を基に、規律ある生活指導を推進し、生徒の自律心を高める。授業規律と学習の雰囲気維持する。	ウ・学校教育自己診断「学校生活について、学校の指導は納得できる」生徒肯定率 85%以上維持 [89. 7%] ・SNS トラブル防止の生徒向け講習会年 1 回実施[1 回][新規]	ウ・学校教育自己診断「学校生活について、学校の指導は納得できる」生徒肯定率 89. 5%で達成できた。教員との関係性が良いことが挙げられる。(○) ・SNS トラブル防止の生徒向け講習会は 1 回実施できた。教員の丁寧な説明と教材で実施できた。(○)
	(2)キャリア教育、人権教育の推進 ア 進路指導体制の充実	(2) ア 体系的な進路指導計画と学年毎にキャリア教育 HR 等の実施。就労について生徒の意識向上と勤労観をはぐくむ。	(2) ア・学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」生徒肯定率 85%以上維持[89. 7%] ・進路未決定 0 人の実現 [未決定 0 人]	(2) ア・学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」生徒肯定率は 84. 2%で前年度を下回ったが、教材の工夫で高い値を維持できた。(○) ・未決定 3 人で達成できなかった。より早期の進路指導の展開が必要であると考えられるため、上記のような取組みを行う。(△)
	イ キャリア教育の取組み ウ 互いを認め合える人権教育	イ 「社会の一員としての自立」をめざし、進路対策、就職試験対策の実施。 ウ 良好な人間関係や集団づくりのため、生徒人権研修と人権 HR の実施。	イ・キャリア教育として地域企業や外部人材による生徒向け講習会実施 [年 2 回] ・資格検定受検者の増加 [2 人] ウ・学校教育自己診断「学校の人権学習の授業は、よかったと思う」生徒肯定率 85％以上維持 [89. 7%] ・人権委員会による生徒向け人権講習会実施、年 1 回[新規] ・差別事象 0 件 [0 件]	イ・キャリア教育として地域企業や外部人材による生徒向け講習会は 2 回実施できた。(○) ・資格検定受検者は 2 名受検で達成した。(○) ウ・学校教育自己診断「学校の人権学習の授業は、よかったと思う」生徒肯定率 86. 8%で達成できた。(○) ・人権委員会による生徒向け人権講習会を 2 回実施できた。特に 1 回はコミュニケーション学習を行い、その理解が深まった。(◎) ・差別事象 0 件で達成できた。(◎)
3 生徒支援を軸にした学校づくり	(1) 生徒支援 ア 個別の生徒支援の取組み	(1) ア 生徒支援委員会を中心に本校独自の生徒支援カードや SC・SSW を活用した効果的な教育相談と支援の取組み。	(1) ア・学校教育自己診断「学校では、生徒支援のための取り組みを行っている」教員肯定率 85％以上維持 [87. 5%] ・登校時出席チェック・登校時挨拶を毎日実施 ・外部機関と連携し生徒支援を行う	(1) ア・学校教育自己診断「学校では、生徒支援のための取り組みを行っている」教員肯定率 100％で達成できた。(◎) ・登校時出席チェック・登校時挨拶を毎日実施できた。この取組みで生徒の状況把握につながった。(○) ・子ども家庭センターやハローワークと連携し生徒支援を行なった。(○)
	イ 生徒との会話力を高め、信頼と安心の学校づくりに取り組む	イ 生徒が信頼し安心できる学校づくりと職場におけるハラスメントの防止を推進。	イ・学校教育自己診断「悩みやいじめ等を相談し親身になって応じてくれる先生がいる」生徒肯定率 90%以上維持[92. 3%] ・教職員ハラスメント研修年 1 回[新規]	イ・学校教育自己診断「悩みやいじめ等を相談し親身になって応じてくれる先生がいる」生徒肯定率 92. 1%で達成できた。(○) ・教職員ハラスメント研修は 0 回で達成できなかったが、准校長よりハラスメントについての周知は行った。(○)
	ウ 不登校及び退学者の減少	ウ 長期欠席生徒への対応と生徒の相談体制を充実させる。新入生登校率の向上。	ウ・生徒状況を把握し全教職員での情報共有のための情報共有シートを活用・継続する。 ・三者懇談期間の設定、年 2 回 [新規] ・生徒情報共有会を年 2 回実施する。[2 回] ・NP0 と連携し居場所カフェの開催を継続する。[28 回] ・中退率 10%未満 [2. 3%]	ウ・情報共有シートを活用・継続できた。SC や SSW の専門人材にも活用できた。(○) ・三者懇談を 2 回実施できた。(○) ・生徒情報共有会を支援委員会主催のものだけではなく、夏休み明けからタイムリーに情報共有できるよう週 1 回実施し、28 回実施できた。(◎) ・NP0 と連携し居場所カフェの開催を 25 回実施できた。(○) ・中退率は 2. 3%で達成した。(○)
	(2) 安全安心な学校づくり ア 防災・安全教育	(2) ア 「生命を守る」防災・安全HR の実施。	(2) ア・学校教育自己診断「学校で、事件・地震や火災がおこった場合、どう行動したら良いか知らされている」生徒肯定率 95%以上維持 [100%]	(2) ア・学校教育自己診断「学校で、事件・地震や火災がおこった場合、どう行動したら良いか知らされている」生徒肯定率 92. 1%で達成できなかったため、1 月の生徒集会で地震の場合の行動について周知した。(○)
	イ 薬物乱用防止の継続開催	イ 学校薬剤師と協力し、薬物乱用防止教室を実施	イ・保健係等による薬物乱用防止の生徒向け講習会の実施継続、年 1 回 [1 回] ・外部人材である保健室サポーターの継続 [新規]	イ・保健係等による薬物乱用防止の生徒向け講習会の実施継続、年 1 回実施できた。(○) ・外部人材である保健室サポーターを活用できた。(○)
	(3) 情報発信 ア 学校 Web ページの充実と情報発信	(3) ア ホームページの充実を図り、情報発信を推進。	(3) ア・学習支援クラウドサービスによる保護者向けの学校情報の配信を毎月 1 回以上実施し、学校からの情報発信とする。[15 回] ・学校 Web ページや SNS の更新 150 回[163 回]	(3) ア・学習支援クラウドサービスによる保護者向けの学校情報の配信を 50 回実施した。(◎) ・学校 Web ページや SNS の更新は 60 回実施で達成していない。しかし、本校の保護者ニーズや中学校生徒及び保護者ニーズを捉え、方針転換を行い、学校 Web ページに一本化した。また、広報活動も方針を切り替え、中学校や福祉関係への訪問による広報活動を 35 か所行い、学校説明会の参加者は昨年より 20 名増加した。

府立成城高等学校 定時制の課程

	イ 個人情報の適切な管理	イ セキュリティポリシーの確認と「個人情報を取り扱う責任」を自覚し、個人情報管理のルール徹底を図る。	イ・個人情報漏洩の事象 0 件を実現 [0 件] ・ICT 委員会による新統合 ICT 環境に関する研修年 2 回 [新規]	(◎) イ・個人情報漏洩の事象は 0 件で達成できた。 (○) ・ICT 委員会による新統合 ICT 環境に関する研修は個々に委員長が対応したため、実施していないが、生成 AI の研修を 1 回実施できた。 (○)
--	--------------	--	--	---